

教育と文化

No.135

令和6年7月



Contents

- P2 巻頭言「願いを受け継ぐ」
- P4 三河の文化を訪ねて「平坂の鋳物業」
平坂小（西尾）
- P6 **特集** 文化振興会の刊行物モニター制度
- P8 教育随想 「気づき」「つながり」「ふりかえり」
愛知県小中学校長会長・幸田町立坂崎小学校長 都築 孝明
- P9 教室の窓辺「粘り強く学び抜く先にあるもの」
芦原小（豊橋）
- P10 令和5年度最優秀論文
- P12 刊行物の活用紹介
- P13 令和6年度学校教育ボランティア助成グループ一覧
- P14 令和6年度研究発表校一覧
- P16 文振だより
「文振版リアテンドントいよいよ運用開始」
令和6年度 みかわ彩発見 絵画コンクール



公益財団法人愛知教育文化振興会理事長 彦坂 登一郎

巻頭言

願いを受け継ぐ

と、華山少年期のエピソードを基に児童劇を考案、昭和2年に「華山の立志」というタイトルで上演したのです。これを契機として、華山にまつわる劇は内容を充実させつつ伝統劇として演じられることとなりました。

華山の偉大さを伝えるには…

以来、戦争による中断はあるものの、華山劇は演じ続けられ、演劇を通して、華山が偉人であることは確かに印象付けられました。しかし、華山の歴史上の業績や優れた人物像について、ほとんど学ぶことができていませんでした。

このことは、教諭として本校に赴任した私にとり、一つの心懸かりとなりました。折しも、当時は学習指導要領に「総合的な学習の時間」が新設され、カリキュラム構築が課題となっており、その流れの中で、華山を教材とした総合的な学習単元開発に取り組みました。校区にある華山の史跡を探し、調べたことや考えたことを話し合う拙い授業実践でありましたが、一つの提案となったと思います。約20年の時を経て、校長として赴任しますと、5年のカリキュラムに華山についての追究活動が位置付けられました。文部科学省指定のキャリア教育研究の取り組みの中で整備され、中身も充実したものとなっており、とてもうれしいことでした。華山の偉大さを子どもに伝えたい。伊奈先生の願いは受け継がれていたのです。私自身も校長としてできることを模索、実行しました。最も力を入れたのが、全校集会での講話です。華山を取り上げ、業績や人物像について紹

卒業を間近に控えた6年生が、奉仕活動の一環として、正門近くにあるブロンズ像を一生懸命磨いています。その様子を目にとめた下校途中の1年生が駆け寄り、「うらやましそうに話しかけました。」

「ああ、いいな、いいな。ほくも華山先生、きれいにしたい。帰ってから、また来て、一緒に磨いていい？」

このエピソードに、私の頬も思わずゆるみます。本校で大切にしている郷土の偉人・渡辺華山が、児童の心に憧れの存在として根付いていると感じたからです。

渡辺華山（1793-1841）は幕末に活躍した田原藩家老であり、日本を代表する蘭学者、画家としても有名な人物です。このブロンズ像は、渡辺華山の少年期のあるエピソードをモチーフに製作されたもので、「立志の像」と呼ばれています。本校では渡辺華山をととても大切にしており、児童は尊敬の気持ちを込めて「華山先生」と呼んでいます。



立志の像

渡辺華山と伊奈森太郎校長

令和3年4月、私は母校であり、教諭としても勤めた田原中部小学校に校長として赴任しました。三度の関わりの中で、「渡辺華山」という存在は、回を重ねるごとに重みを増し、私の学校経営の一

介しました。理解力に大きな差のある小学生です。写真やイラストを活用しながら、できる限り全校児童に分かりやすく説明するように心がけました。令和5年度実績では、年間20回の講話の内、5回を華山の講話に充てました。

問題と向き合う中で本質に還る

校長として赴任した当時はコロナ禍の渦中で、感染リスクの高い演劇は敬遠されがちでしたが、中断されることなく継続されていきました。ただし、華山劇配役の性別制限が根深い問題として横たわっていました。華山は男性ですので、不文律として「華山役は男子が演じること」とされてきたのです。しかし、年々、華山役に立候補する男子は減少傾向にある一方で、女子からの立候補希望は毎年のように聞かれます。近年の男女平等意識の高まりも考えますと、性別制限の見直しは必要です。しかし、周囲からの様々な声が想像され、実行するのは勇気のいることでした。

悩む私を決断へと向かわせたのは、「華山劇は何のために行うのか？」という本質への問いかけでした。華山劇を創設された伊奈先生の願いは、華山の偉大さを子どもに伝えることでした。その創設の初志から考えるに、我々が本当に大切にすべきことは、劇により華山の生き様を多くの子どもに学んでもらうことにあり、配役の性別は大きな問題ではない。さらに、このことは、常に物事の本質を大切にされ、蘭学から西洋文化の合理性を学ばれた「華山先生」のお考えに沿うことにもなる。そう思い切り、決断に至りました。



伊奈 森太郎

つの柱となっています。

華山を本校の教育活動に根付かせたのは、伊奈森太郎校長（在任1909-1931）です。私は教諭時代に当時の校長から伊奈先生の業績を教えられ、深い感銘を受けました。伊奈先生は素晴らしい教育者でした。PTA機関紙『家庭と学校』の中で、先生は「知識偏重の注入教育により児童を小さく成熟させる盆栽教育ではなく、児童の能力を開発する大樹教育」の重要性を訴えています。この教育思想は、まさしく「生きる力」の育成を目指す現行学習指導要領の理念に通じるものであり、明治末期から昭和初期の時代に、現代に通じる進歩的な教育理念で実践を積み重ねられた伊奈先生の業績の巨大さに、ただただ心打たれるばかりです。

今でこそ、華山は郷土の偉人として田原の多くの人々に認知されていますが、伊奈先生在職の頃は、ほとんど知られていなかったそうです。これは、華山が江戸詰めの武士で田原に数回しか来訪していないこと、さらには、晩年、蛮社の獄により罪人として田原に送られてきたこと等の理由によるものと思われれます。こうした状況を残念に思った先生は、華山の偉大さを子どもに教えよう

令和4年度の学芸会。女子児童により見事に華山が演じられ、観客から惜しみない拍手が贈られました。私の胸に去来していったのは、一つの事を成した喜びというより、成し始めることができた安堵であったように思います。



華山劇「板橋の別れ」

「見よや春 大地もおす 地虫さへ」
華山の句で、苦境にあっても努力を積み重ね未来を拓こうとの決意が込められています。これまでに述べた私の取り組みも、地虫の営みのような小さなものですが、様々な御縁の中で先人の願いを受け継ぐ営みであったと思ひ直され、感慨深いものがあります。

本年6月、私は愛知教育文化振興会の理事長を拝命しました。本会もまた、「三河の教育文化の振興発展に寄与したい」「三河の子どもにも安価で良質な教材を届けたい」という先人の願いにより創られたものであり、その初志と本質を大切に、職務に専念する覚悟です。どうぞよろしくお願いたします。

江戸時代から続くモノづくりの町

平坂の鋳物業

西尾市立平坂小学校長 岡田 秀則



太田庄兵衛の銘が残る半鐘
(西尾資料館蔵)

西尾市立平坂小学校の校庭には、「福かえる」の置物があります。これは、平成6年3月に当時の6年生が卒業記念品として地元の鋳物組合の協力を得て制作したものです。彼らは、5年生の時に社会科の授業で「平坂の鋳物」を扱い、その学習の成果として校内に期間限定の「鋳物博物館」を開館しました。鋳物組合を巻き込んだ取り組みであったため、その縁で卒業制作

でも協力いただけることになりました。30年以上経った今も訪れる方の目を引いています。

鋳物工場が点在する平坂の町

本校の校歌3番に「ふきの炎の天をもこがす」という歌詞があります。これは校歌が作詞された当時、学校から見えた鋳物工場のキューポラから出る火の粉の光景を表しているとされています。

平坂は鋳物の町です。工場の数こそ減りましたが、今でも校区には鋳造所が点在しています。

その歴史は江戸時代にさかのぼります。平坂鋳物の起源には諸説ありますが、太田庄兵衛、甚兵衛の両名が近江国栗田郡辻村(滋賀県)から移転したことを証明する「宗旨請状」と「手形」の写しが発見されたことから16



鋳物製の「福かえる」

梵鐘から日用品へ

1800年代に入り、生産の中心が梵鐘から鍋や釜などの日用品に移行していくこととなります。近隣の寺院からの注文が少なくなったこと、庶民の生活向上により鍋や釜の需要が増えたことがその理由として考えられます。

1824(文政7)年、太田家はこれまでより設備を拡大し、日用品の注文増加に対応することにしました。太田家と同じ近江国出身であり、須田町で開業していた「鍋屋」を営む辻利八がそうした日用品の販売にあたりました。明治期、太田家は鋳物業で得た収益を土地購入へ投資することで大地主となりました。「三河国幡豆郡地価鏡」によると、10代太田倭三郎の時には、地価額で郡内第3位に記録されています。太田家の菩提寺は、一色町味浜にある普元寺ですが、代々の墓石は住まいに近い楠村町の阿弥陀院にあります。



鋳物製の太田家の墓
(西尾市楠村町・阿弥陀院)

鋳物工業協同組合設立

12代太田庄三の時、200年以上にわたって栄えた太田家が衰退していくことになりました。その理由としては、庄三が鋳物業の他に、石炭・塩田・紡績などの事業に手を出し、失敗したことが挙げられます。

1894(明治27)年、太田金屋が廃業すると、太田金屋の番頭を務めたことのある伊藤小三郎が買収に乗り出しました。小三郎は金物屋として販路を広げるとともに製造にも着手しました。平坂に伊藤鋳造所を設立すると、意欲的に規模の拡張を図ることになります。

1921(大正10)年には、小三郎を初代理事長として平坂鋳物同盟会が結成されます。その後、名称変更を幾度か経て、現在の西尾市鋳物工業協同



市内に多く残る丸型ポスト

71(寛文11)年を起源とすることが定説となっています。

兩名の出身地である近江国辻村は、鋳造業がたいへん盛んな地で、この村出身の鋳物師が全国で活躍していました。近辺では碧南の国松家、岡崎の木村家などがあります。

また、平坂地区で特に鋳物業が発展した理由として、次のことが挙げられます。

- ① 平坂港があり、原材料や製品の輸送に都合が良かったこと
- ② 矢作川が運んだ砂が鋳物砂として利用できたこと
- ③ 三河三都(豊橋・岡崎・西尾)の一つとして、釜や鍋の需要が高かったこと

このような経緯で、今から350年ほど前に平坂の地で鋳物づくりが始まりました。

組合となりました。

西尾市には丸形ポストが多く残されています。県内最多の14基が現存し、今も現役で活躍しています。伝統的な赤色ポストのほか、最近は抹茶色やピンク色で彩られるようにもなりました。

こうした丸形ポストの多くは、西尾市内の鋳物工場で製造されたようです。伊藤小三郎が設立した伊藤鋳造所は、現在平坂鋳工と名称を変更しています。が、ポストを製造していたという記録が残っています。

地元で息づく平坂の鋳物業

西尾市鋳物工業協同組合は設立から100年を超えました。その記念事業の一つとして本校と共同してコラボ企画が始まりました。実際に鋳型・砂型を用いて行う鋳造体験です。令和5年度は平坂小学校5年生が自分のアルファベットを形どった鋳物を製作しました。児童は「砂型を使うことを初め

梵鐘造りから始まった鋳物業

太田庄兵衛・甚兵衛は、平坂三間屋の一人であった市川彦三郎の援助を受け、鋳物業を営むこととなりました。太田家は鍋や釜などの日用品の他に、寺院の梵鐘の製作を請け負っていたようです。

太田家が製作した梵鐘の中で最も古いものは、1672(寛文12)年10月15日と記された上矢田町桂岩寺のものですが、残念ながら現存していません。現在、西尾市資料館に所蔵されている太田貫徳受院の半鐘には、元禄12(1699)年の銘が残っており、作者太田庄兵衛の名も刻まれています。

太田家の梵鐘製作が一番盛んだったのは、1700年代でした。西浅井町源空院の梵鐘を皮切りに、この100年間で27もの梵鐘を手がけています。



鋳物組合と地元企業の協力で行われた鋳造体験

て知った」「鋳物作りが盛んだということを自慢していきたい」等の感想をもち、有意義な活動となりました。このようにして江戸時代から続くモノづくりの町・平坂の鋳物業は今も地元でしっかりと息づいています。

写真提供

西尾資料館

西尾市教育委員会事務局文化財課

参考文献

『西尾の人物誌』

『西尾を築いた100人』

『西尾の鋳物 鋳物組合百周年記念誌』

文化振興会の 刊行物モニター制度

(学校モニター・郡市等モニター・モニターBOX)



特集

1 学校モニター

調査対象

- ・三河の小中学校の教員
- ・小学校刊行物の調査と、中学校刊行物の調査を隔年で実施

- ・各刊行物に対して2～3校に調査を依頼(のべ、23校に依頼)

調査の内容

- ・5～6の調査項目を選定し、自由記述で回答
- ・学年ごと・領域ごとに提出

調査・集約

- ・6月正式依頼 11月下旬意見集約
- 令和7年度(来年度)の編集委員会に意見を反映

【令和5年度 調査結果(英語演習) 抜粋】

問題の量や難易度について、お気づきの点を具体的にお書きください。

〈1年〉・問題の量や質はよく、定期テストの参考にもさせてもらっています。難しい問題が多く、1年生のスタート(各単元末)に使用するのにはかなり厳しいという印象です。

〈2年〉・空欄補充、並びかえの問題など、問題の種類が多く、子ども達もたくさん問題に慣れることができたと感じました。入試問題のような読解問題(教科書の文章でない、初見の問題)があると、常に試験を想定して学習できると感じました。

〈3年〉・基礎問題が多いと思います。基礎問題は、ワークでやっているのでも、応用的な問題を増やしていただきたいです。リスニングの話すスピードが少し遅いと思います。

模範解答の解説を充実させました。生徒の学習にどのように役立ったのか、具体的にお書きください。

〈1年〉・文法上のポイントや覚えるべきポイントが示されているので、演習実施後生徒が何を身に付けなければいけないか意識して学習するのに役立っている。

〈2年〉・長文問題に和訳がついているのもとてもよいです。生徒の長文理解に役立っています。

2 郡市等モニター

調査対象

- ・三河地区の市町村教科領域指導員等の皆さん(3つの市に依頼)

- ・小学校刊行物の調査と、中学校刊行物の調査を隔年で実施

調査の内容

- ・系統性、発達段階の適合
- ・問題の質・量等

調査・集約

- ・6月に正式依頼、8月下旬に集約
- 令和6年度(本年度)の編集委員会に意見を反映

【令和5年度 調査結果(数学の友) 抜粋】

全体を通してよい内容について

- ・一つ一つの問題に、困ったときに教科書のどのページに立ち返ればよいか書かれていてよい。
- ・教科書との連携がとれており、教科書レベルの問題から入試問題レベルの問題まで、幅広く、バランスのよい問題となっている。

改善したほうがよいことや願望

- ・C問題や入試問題には、ヒントがあるとよいと感じた。

具体的な場面や問題について

〈2年〉・p17 6の問題で、矢印と言葉とリンクさせてうまく解説してあるので、等式の変形の流れがとてもわかりやすい。

・p66 グラフを作図する問題に、変域が含まれた問題がほしい。

〈3年〉・p110 作図の問題では、QRコードを利用して、作図の仕方を解説してほしい。

3 モニターBOX

調査対象

- ・三河地区の教員・保護者・児童生徒

調査の内容

- ・刊行物についてのご意見、ご要望

調査・集約

- ・随時

New

文振HPから
(パソコン・スマホで)、
だれでも投稿できます。



モニターボックス
(刊行物に対するご意見等をお聞かせください)

豊知教育文化振興会の刊行物を使用いただき、ありがとうございます。
当法人は、三河の小中学校の児童生徒及び教員のために、よりよい刊行物づくりを目指しています。
当法人の刊行物について、皆様のご意見等を忌憚なくお書きください。貴重なご意見として承ります。
必須項目の記入は、必ずお願いします。

※ あなたのお住いの市町村名を記入してください。

※ あなたは、どの区分(小学校教員・中学校教員・保護者・小学生・中学生・その他)に該当しますか

※ 名前 姓 _____ 名 _____

ご意見・ご質問・ご要望の記入をお願いします。
①小学校用刊行物、②中学校用刊行物、③その他に分かれています。
①②については、該当する刊行物名を選択してから記入してください。
また、どの学年の刊行物についてのご意見かが分かるように記入をしてください。

①小学校用刊行物 _____



「気づき」「つながり」

「ふりかえり」

愛知県小中学校長会長・幸田町立坂崎小学校長 都築 孝明



Profile つづき たかあき

昭和39年 蒲郡市生まれ。
昭和62年に額田中学校から教員生活を始める。
海外日本人学校、附属岡崎中学校、離島へき地学校等に勤務
県教育委員会・教育事務所・町教育委員会を歴任
現在幸田町立坂崎小学校長
令和5・6年度愛知県小中学校長会長

僚友の三河小中学校長会長・彦坂登一朗先生は「本質を問いつける」、三河教育研究会会長・柴田昌一先生は「誇りをもって、学び続ける三河教師」を合言葉に、各組織においてリーダーシップを発揮しており、同期として頼もしい限りです。

ところで、子どもたちや教師が「本質を問いつける、学び続ける」には、どのような手立てがあるでしょうか。私自身は、日々の教育実践を見直す際に、三つの視点―「気づき」「つながり」「ふりかえり」を大切にしていまいました。

この考えに至ったのは、研究校の勤務時代に校長先生からいただいた御指導がきっかけとなっています。研究推進のために研究主任として総論を考えるにあたり、「全教科・領域に共通する『よい授業の条件』とは何だろう」と自問自答をしておりました。「研究は理論的でなければ」と焦り、難しい表現を多用していた私に、「言葉が難しいのでは。様々な立場の先生方にも理解いただける研究にしたいですね」という旨の御指導をいただきました。また、別の校長先生は、研究授業後に、「要するに、授業で大切なのは、子どものしたい

ことと教師のさせたいことをいかに折り合わせるか」という旨をおっしゃいました。この「言葉が難しい」ということを克服し、「要するに」と一言で表せる視点を探し続けた結果、この3点の大切さにたどり着いた次第です。

実際の授業場面ではどうでしょうか。導入で、教師が一方的に課題を与えて「これをやりましょう」などとするのではなく、示された対象から「おや?」「あれ?」という気づきが生まれ、参観者さえも引き込まれるような場面があれば、きつとよい授業でしょう。また、展開では、クラス全体の課題が自分の問題としてつながり、熟考する姿が見られたなら、きつとそれもよい授業でしょう。さらに、終末では、「どうだった?」という声がけで、子どもたちが「やってよかった」と学びの価値に気づいたり、「次はこれをやりたい」となど新しい問題が見つかったりすれば、きつとこれもよい授業でしょう。

校長職を拝命し、教科のもち授業はなくなりましたが、新たな「授業」の機会がいただけました。全校朝会や行事などで、校長が人前で語る機会は、

教室の窓辺

粘り強く学び抜く先にあるもの

豊橋市立芦原小学校 柳澤 拓也

「うおっしゃあ。」
体育館の中央辺りからAが放った紙飛行機の先端が、体育館後方の壁に突き刺さると、Aは、ガッツポーズをしながら叫びました。

芦原小学校は、研究主題を「粘り強く学び抜く子ども」として学習指導、特に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりについて研究を進めています。

2年の生活科で、おもちゃ作りを通して、粘り強く学びながら、気づきの質を高めていく子どもの姿を狙って単元を構想しました。単元中盤、Aは折り紙名人として一目置かれていましたが、紙飛行機の飛距離を思うように伸ばすことができずに、苦しんでいました。振り返りには「飛行機の折り方は間違っていないはずなのに、どうして飛ばないのかな。他にも秘密があるのかな」と悩みや疑問点ばかりが書かれていました。

そこで私は、研究の核になり得る手だての『振り返りの可視化』を講じました。毎時間の振り返りを、コラボノートで共有し、授業開始後数分は、それを読み合う時間を確保しました。

次の個人追究の時間、AはBに寄り添い、飛行機を折る姿をじっと見つめていました。このAの姿は、飛距離を伸ばした方法が書かれたBの振り返りを読んだことで、行動として表出したものだと考えます。「そうか。先をねじるんだ」自分にはない工夫に気づいたAは、その時間、久しぶりに飛距離を伸ばし、喜びの思いを振り返りに綴りました。単元終盤になると、子どもたちの追究の目は、『発射台』に向けられていきました。個人追究で悪戦苦闘しながら発射台の改良を続けるうちに、同じような工夫をしている子ども同士でグループになり、さらには、「みんながなぜその方法を試しているのか、一回みんなで話し合いたい」とほとんどの子が思うようになりました。冒頭のAの姿は、その話し合いで、新たな気づきを得て飛行機を飛ばした時のものです。失敗を乗り越えて粘り強く学び抜き、友達と教え、教えられるながら達成感を得られたAの姿から、本研究の可能性を感じる事ができました。

また、何度も粘り強さを見せたAの姿には、本研究の一つの手だて『レジリエンス』が関わっていると考えています。本校では、「しなやかでたくましい心づくり」を推進しており、このレジリエンスを、授業だけでなく生活、行事においても系統的に高めていくことを大切にしています。今年度は、研究2年次になります。自分自身のレジリエンスを高めるとともに、子どもたちと真摯に向き合えるすばらしい仲間と、協働しながら粘り強く学び抜く子どもの姿を求めて、私たちが粘り強く研究を進めていきたいと思えます。

※レジリエンス：困難をしなやかに乗り越え回復する力



飛行機を遠くに飛ばす方法を追究する子どもたち

最寄りの渥美線芦原駅周辺には、40数年前に、児童と地域の方で植樹した立派な桜並木があります。芦原小は、開校当時から地域とともに歩んできた学校です。

柳澤教諭は、昨年本校に赴任し、研究主任として、子どもたちの良さを生かし、実態をとらえて構築した研究の理論に基づき、意欲的に授業実践を重ねています。単元に散りばめられた手だてやしかけは、子どもの心に火をつけ、夢中にさせる中で、様々な疑問や問いを生むとともに「解決をしたい」という子どもの強い思いが、単元を貫き、授業を創り上げています。

共に学び合う集団、「チーム芦原」の研究のリーダーとして、前進し続ける柳澤教諭を中心に、全職員で粘り強く研究を推進していきます。(校長 渡會 眞理子)



蒲郡市立形原北小学校
教諭 近藤 祐輔

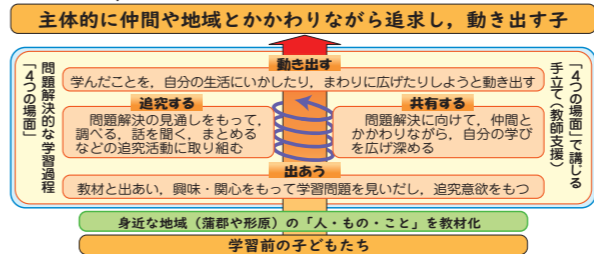
主体的に仲間や地域とかかわりながら追究し、動き出す子を育てる社会科学習

一 はじめに

これまでの授業実践を通して、子どもたちが成長する姿から、次のような子どもを育てたいと強く願った。

- ①教材と粘り強くかかわり、主体的に追究する子
- ②他者とかかわりを通して、学びを深め、一人では解決できない問題を解決できる子
- ③身近な地域とかかわりを通して、地域のよさを見いだし、学んだことを生活につなげ、地域に還そうと動き出す子

このような子どもたちを育てるためには、問題解決的な学習過程が必要不可欠であると考え、四つの場面「出会う」「追究する」「共有する」「動き出す」を単元に位置づけることにした。



研究構想図

二 一年次の研究

主体的に学び、かかわる子

一六年子どもたちの追究意欲をつなげる
国語科学習

生産量日本一を誇る形原のロープ産業を教材化した。単元の導入時には、子どもたちのロープづくりに対する興味・関心を掘り起こすために、ロープの原料であるペレットを見せて、ロープがつくられることを示した。ペレットとの出あわせにより、子どもたちは、「どうやってロープをつくるのだろうか」という学習問題を見だし、問題解決への追究意欲をもった。



ロープの原料となるペレット

☆出あう
蒲郡市長の鈴木寿明さんの願いをビデオレターで視聴する時間を設定した。すると、子どもたちは、「蒲郡の未来のために何かをしたい」と話し、蒲郡の未来に対する興味・関心をもち始めた。

☆追究する
そこで、教科書教材『町の幸福論』を読む機会を設けた。プレゼンテーションという提案方法にも目を向けた子どもたちに高校生の動画を提示すると、やってみたいと反応した。蒲郡のよりよい未来について提案するために、情報を集め、プレゼンテーションの内容を考え、練習に取り組んだ。

☆共有する
プレゼンテーションの中間発表を行うと、「上手いかなかった」「どうすれば上手くいくのか」という声があった。そこで、学級全体で悩みを共有し、再び高校生の動画を視聴して気づいたことを伝え合う時間を設けた。子どもたちは、仲間の考えを聞き、自分では気づかなかった「大事な言葉を強調する」「動作をつける」などプレゼンテーションのポイントや、文章構成の大切さにも気づくことができた。

☆動き出す
グループで提案を練り直した子どもたちに、提案動画を撮影する場を設定した。すると、これまでの学習をいかし、「序論」「本論」「結論」という文

章構成でグループで声をそろえるという発表方法を実践し、地域の人に向けてプレゼンテーションできた。

三 二年次の研究

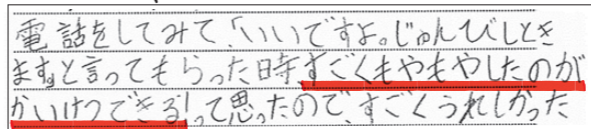
主体的に他者とかかわりながら追究し、動き出す子を育てる社会科学習

一四年「水道水どうしていつも使えるの？」
「くらしを支える水道水」の実践を通して

☆出あう

導入時、水管橋が壊れて断水になってしまった和歌山市のニュースを視聴する時間を設けた。すると、子どもたちは、水が出ない不便さを感じるとともに、蒲郡は水道水が使える現状に目を向け、「どうして蒲郡市ではいつも水道水を使えるのか」という学習問題を見いだし、追究意欲をもった。

☆共有する
「タプレットや本では、蒲郡のことが分からない」と考える子が多く、追究が停滞気味であることが教師との対話でわかった。そこで、仲間と話し合う場を設け、追究方法について考えさせた。すると、くわしい人に聞くという追究方法を見いだした。代表の子どもが、市役所の水道課の方に取材の依頼を行い、許可が出ると、子どもたちは、歓喜の



取材許可が出た時の授業日記

☆動き出す

工場で働く人のロープづくりへの情熱に迫った子どもたちから「ロープについて知ってほしいって言っていたから、たくさんの人に伝えたい」との声があがった。そこで、「ロープの力プロジェクト」という学びを生かす場を設定した。子どもたちは、本やポスターを制作し、全校に知らせようと動き出した。休み時間には、自分の本やポスターがある場所を確かめに行き、他学年の子が、「形原のロープってすごいんだ」と言いながら読む姿を見て、「これで伝わるよ」と嬉しそうに伝えるにきた。自分たちが動き出したことへの達成感を味わった。

五 おわりに

三年間の研究を通して、主体的に仲間や地域とかかわりながら追究し、動き出す姿を見ることができた。これは、身近な地域の「人・もの・こと」を教材化し、問題解決的な四つの学習過程を単元に位置づけ、子どもの状況に応じた教師支援を講じてきた成果であると考えられる。

今後、子どもたちの成長を願い、そのために必要な手だてを講じて、粘り強く研究を重ねていきたい。

四 三年次の研究

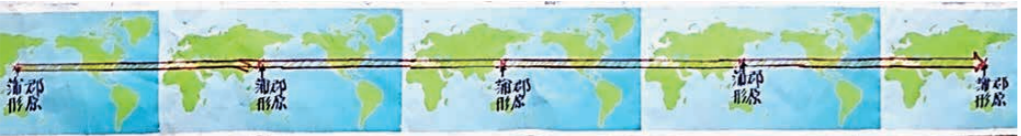
水道課で働く人たちの苦勞や思いに迫った子どもたちは、「節水したい」「水の大切さを知ってほしい」という願いをもった。そこで、「節水大作戦」と題し、追究を生かす場を設けた。すると、子どもたちは、節水方法を調べ、「こまめに蛇口をしめる」「コップでうがい」などに取り組んだ。また、まわりの人に水の大切さを広めようと、新聞を制作した。節水を習慣化させ、継続し追究の成果を自分の生活につなげようと動き出す子どもの姿があった。

主体的に仲間や地域とかかわりながら追究し、動き出す子を育てる社会科学習

一三年「形原のロープはこうして日本一？」
「ロープ工場ではたらく人」の実践を通して

☆出あう
生産量日本一を誇る形原のロープ産業を教材化した。単元の導入時には、子どもたちのロープづくりに対する興味・関心を掘り起こすために、ロープの原料であるペレットを見せて、ロープがつくられることを示した。ペレットとの出あわせにより、子どもたちは、「どうやってロープをつくるのだろうか」という学習問題を見だし、問題解決への追究意欲をもった。

☆追究する
学習問題の解決に向けて、子どもたちは、本やインターネットで追究し始めた。必要な情報を得られず問題解決には至らなかった。そのようななか、グループマップで形原北小学校区のロープ工場を発見した子ども「近くは、話し合う時間を設けた。子どもたちは、「どうして形原はずっとロープづくりで日本一なのか」という新たな学習問題を見いだすことができた。そして、働く人や先人の努力や工夫、思いに目を向けて、形原の日本一のロープづくりの本質に迫っていった。



提示した資料 形原の工場の1年間のロープ生産量(5000t)を、距離(16万km)に換算した世界地図

「せいかつかノート」の活用法

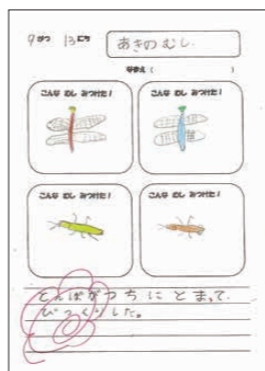
一年間の歩みを残す宝物

碧南市立大浜小学校 教諭 寒作 朋子

一年生の生活科の授業では、四月の学校探検に始まり、アサガオの栽培、水遊び、シャボン玉遊び、公園探検、秋見つけ、虫探しなど、読んでいなくても楽しくなるような具体的な活動・体験を通して子どもたちは学んでいる。しかし「活動あって学びなし」とも言われるように、楽しく活動をして終わりでは、子どもたちの学びは深まっていけない。私は子どもたちが活動・体験から得た学びをさらに深めるツールとして「せいかつかノート」はなくてはならないものだと思っている。

発見や気づき、学びを記録するせいかつかノート

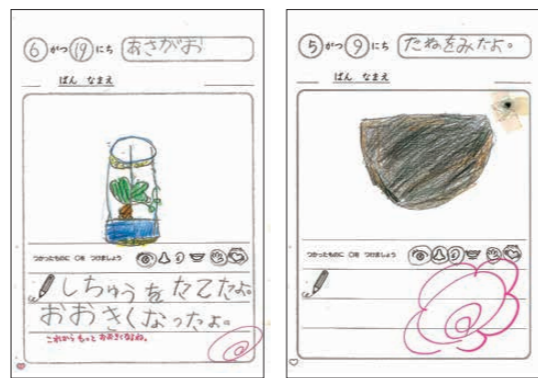
単元「いきものとなかよし」で、子どもたちは公園へ虫探しに出かけ、秋の公園でたくさん虫を見つけてきた。そして、虫探しの結果を基に、次に捕まえに行くため、公園のどんな所にどんな虫がいたかを話し合った。その際、A児はせいかつかノートに記録していた「トンボが土にとまってびっくりした」という体験を発表した。その後、虫を捕まえに行く作戦を立てるときに「(A児



を発見するし、多くのことに気づくが、記録に残しておかないと、記憶から消えてしまうのも事実である。このように活動・経験から得た学びをきちんと記録に残して、子どもたちの思考を助ける資料として授業内で活用することで学びは加速していく。

ポートフォリオとしてのせいかつかノート

せいかつかノートの中には、子どもたちの一年の学びと成長が詰まっている。例えばアサガオの栽培で五感を使ってアサガオの種を観察する。目で見るだけではなく、においを嗅いだり、触つてみたり。まだ、気づきを文章に書き表すことは難しかった(下右図)。しかし、自分の感覚は、記録として残っている。それからおよそ一か月後、アサガオは成長し、子どもたちも少し長めの文章が書ける



が)トンボが地面にいると言っていたから、とまっている所を狙えばいいと思う」と子どもたちが思考をつなげる様子が見られた。子どもたちは多くのことが

ようになった。アサガオのつるが支柱に巻き付く様子を描くなど、イラストもずいぶんとレベルアップした。このようにせいかつかノートに記録を蓄積していくと一年間でおよそ1cmにもなる。まさに目に見える形で学びと成長が残されていく。年度末に子どもたちに「この一年間でたくさん勉強したね」とせいかつかノートを振り返りながら声をかけると、みんな口々に「すごい!」「がんばったね!」など、喜ぶ姿が見られた。ポートフォリオとしてのせいかつかノートを活用することで、子どもたちは自身の成長を実感することができる。



自己紹介カードの交換

宝物としてのせいかつかノート

せいかつかノートには、クリアポケットがついている。中には「上級生のお兄さんお姉さんからもらった自己紹介カード」「大きなシャボン玉のできるオリジナルストロー」「アサガオのたたき染め」「アサガオの種」「秋見つけで見つけた葉っぱ」「友達からももらったメッセージカード」など、子どもたちがこの一年間で見つけた物やもらった物が入れている。きつとそれは子どもたちにとってかけがえのない宝物なのだろう。そして、せいかつかノートそのものも、きつと子どもたちにとって宝物になっているだろう。授業を終え、せいかつかノートを持ち帰るとき、大切にうにランドセルにしまう姿が印象的であった。

令和6年度学校教育ボランティア助成グループ一覧

読書活動グループ助成対象団体

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学附属岡崎小学校読み語りクラブ	竹内 真紀	愛知教育大学附属岡崎小学校
岡崎	六名小読み聞かせボランティア	中村 朱里	六名小学校
岡崎	がらがらどんの会	久保田久美子	六ツ美中部小学校
岡崎	夏山読みよみたい	志賀 藍子	六ツ美南部小学校
岡崎	大浜小学校図書ボランティア	松村 美紀	夏山小学校
碧南	ころもうらレジャー	平松 裕美	大浜小学校
刈谷	ブックエンジェルズ(東刈谷小図書ボランティア)	白石久美子	衣浦小学校
豊田	ねぎぼうずの会	葛原 希	東刈谷小学校
豊田	読み聞かせボランティア おはなしブルブル	三田 優美	根川小学校
豊田	よみきかせサークル わくわく	深津香奈子	寿恵野小学校
豊田	四郷小学校読み聞かせボランティア	伊藤 恵	青木小学校
豊田	みかんの会の会	根本 智美	四郷小学校
豊田	ひよっこくらぶ	今川 明子	衣衣小学校
安城	錦町小読み聞かせボランティア	松井 裕子	小原中部小学校
安城	読み聞かせクラブ「ありす」	安藤佳子	小原中部小学校
安城	桜町小学校図書ボランティア	和戸 知愛	錦町小学校
安城	西尾小学校図書ボランティア	高上 美詞	二本木小学校
西尾	ハナット(図書館ボランティア)	石川 郁子	桜町小学校
西尾	東幡豆小学校こもれび図書館ボランティアグループ	梅田 佳世	西尾小学校
西尾	知立小図書ボランティア	汐田 瑞絵	花ノ木小学校
高浜	鷹灯里の会	鳥居 京子	東幡豆小学校
高浜	読み語りボランティア「童夢」	信田 顕史	知立小学校
幸田	学校支援ボランティア	内山さえか	高取小学校
幸田	汐田小図書ボランティア	松川万里子	三好丘中学校
豊橋	高豊中学校図書ボランティアグループ	高田 智香	中央小学校
豊橋	福岡小図書ボランティア	中村由起乃	汐田小学校
豊橋	芦原小学校図書ボランティア	福井 綾子	芦原小学校
豊橋	高豊中学校図書ボランティア	栗山みのり	福岡小学校
豊川	豊川市立桜木小学校読み聞かせボランティア	酒井 梓	高豊中学校
豊川	チェリータウン	今村 友紀	桜木小学校
豊川		小野 正巳	桜町小学校

〈地区〉	〈団体の名称〉	〈代表者〉	〈主な活動場所〉
附属	愛知教育大学学生ボランティア有志の会	多賀 遥菜	愛知教育大学附属特別支援学校
岡崎	南中サポーターズ倶楽部	貝森 喜信	南中学校
岡崎	YUS(ユース)サポータークラブ	竹下 寅夫	矢作中学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	杉浦 夕佳	西端中学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	林 明美	日高小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	田中 知子	朝日小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	清水金三郎	西保見小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	神谷 亜樹	桜井小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	杉浦 正和	東部中学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	関根 章由	知立西小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	早川 弘樹	高取小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	金子 聖一	北中学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	小川 真護	南部中学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	大口 二美	福岡小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	山本 和男	二川南小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	松崎 光伯	長沢小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	足立 泰敏	蒲郡西部小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	大木ひとみ	新南小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	杉浦 邦典	高松小学校
岡崎	新南さわやかあいさつ隊	加藤 博俊	名倉小学校

読書活動以外のグループ助成対象団体

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
6.11.7 (木)	全教科 デジタルシティズンシップ教育	情報社会の中で自分らしさを発揮する子	5～6	市教委	知立	知立小学校
6.11.14 (木)	道徳	自己を見つめ、他者との関わりを通して、よりよく生きようとする子の育成 ～語り合い、深め合う道徳の授業の実践をとおして～	4～6	市教委	碧南	鷺塚小学校
6.11.15 (金)	全教科	「自ら学びを追究する子どもの育成」 ～ふり返りで学びを見つめ直す活動を通して～	5～6	市教委	刈谷	朝日小学校
6.11.15 (金)	学習指導	個と協働の追究に打ち込み、学びつづける子の育成 ～地域・博学連携による探究的な学習を通して～	5～6	市教委	豊田	童子山小学校
6.11.21 (木)	特別支援教育	安心して活動に参加し、自分なりに「できた」と感じられる子の育成 ～大林スタイルによるインクルーシブな学校づくり～	5～6	市教委	豊田	大林小学校

〈中学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
6.10.4 (金)	教科指導	『自ら問いをつくり、学び続ける生徒』の育成 ～教材との出会い、個の学び、他者とのかかわり合いの活動を通して～	4～6	市教委	蒲郡	大塚中学校
6.10.9 (木)	全教科	未知なる事象に挑み、見方・考え方を磨く生徒の育成 ～教科学習における二段階発問を通して～	5～6	市教委	刈谷	刈谷東中学校
6.10.18 (金)	学習指導	協働的に探究する生徒 ～未来を切り拓く力を育む「朝中型探究学習」を通して～	5～6	市教委	豊田	朝日丘中学校
6.10.22 (火)	全教科	自らの手で未来を切り拓く生徒の育成 ～三つの姿を育む授業づくりを通して～	5～6	市教委	安城	安城西中学校
6.10.23 (水)	教科指導	共に学び 共に磨き 共に生きる ～自他と向きあう自律活動とムッキーコンパスを軸とした授業を通して～	4～6	市教委	岡崎	六ツ美北中学校
6.10.24 (木)	道徳 総合的な学習 特別活動	青空の広がる東中生の育成 ～道徳・総合・特活を核とした新しい東中文化の創造～	4～6	市教委	西尾	東部中学校
6.10.24 (木)	教科指導	学びの楽しさ、わかることへの喜びを感じられる生徒の育成 ～自分自身を見つめるための「学びの見える化」の活用～	4～6	市教委	豊川	西部中学校
6.10.30 (水)	全教科	学びに向かう力を高める生徒の育成 ～主体的な追究が生まれる学習活動の設定を通して～	4～6	市教委	高浜	高浜中学校
6.10.30 (水)	学習指導 (ICT活用推進)	他者とかかわり合いながら、自己の考えを深め、更に学び続けようとする生徒の育成 ～ICTを活用した「問題解決的な学習」を通して～	4～6	市教委	豊橋	北部中学校
6.10.31 (木)	教科	未来SOUZOU ～対象を自分事化しながら追究し、考えを更新できる生徒の育成～	4～6	市教委	田原	田原中学校
6.10.31 (木)	特別活動・道徳	『すべての生徒が元気に登校できる学校づくり』 ～自己効力感を高めるための実践の充実～	5～6	市教委	田原	赤羽根中学校
6.11.1 (金)	地域連携	地域とともに学び、未来の創り手が育つ学校	5～6	市教委	豊田	上郷中学校

〈附属学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題等	研究期間	学校名
6.10.10 (木)	教科	第53回生活教育研究協議会 「躍動」(4年次) ※校舍改修のため限定開催	3～7	附属岡崎中学校
6.11.8 (金)	教科	第55回特別支援教育研究協議会 「学びを生活に生かす子どもの姿を求めて」(5年次)	2～6	附属特別支援学校
6.11.13 (水)	教科	第75回生活教育研究協議会 「自分と向き合う子ども」(1年次)	6～10	附属岡崎小学校

〈小学校〉

発表年月日	研究領域	研究主題	研究期間	指定等	地区	学校名
6.10.4 (金)	教科指導	地域とともに 心豊かに生きるとがみっ子 ～かかわりを大切にしたい学びを通して～	4～6	市教委	蒲郡	蒲郡東部小学校
6.10.16 (水)	学習指導	互いを認め合い、学びを深めていく子の育成 ～言語活動を重視した問題解決的な学習を通して～	4～6	市教委	豊橋	鷹丘小学校
6.10.23 (水)	全教科	どうする とよさかっ子 ～子どもとつくる授業をめざして～	4～6	西三河事務協	幸田	豊坂小学校
6.10.24 (木)	算数科等	見通しをもち、筋道を立てて考えを説明できる矢田っ子 ～算数科等における「矢田小スタイル」を通して～	4～6	市教委	西尾	矢田小学校
6.10.24 (木)	全教科	「幡豆小プライド」を育む ～幡豆っ子が夢になって学ぶ授業の実現から～	4～6	市教委	西尾	幡豆小学校
6.10.24 (木)	教科指導	思いや考えを語り、自己の成長を認め、学びを深める子の育成 ～協働と対話、学びの場をとらえ直した教育活動を通して～	4～6	市教委	豊川	千両小学校
6.10.24 (木)	教科指導	学ぶことが楽しいと感じられる子、学び続ける子の育成 ～専門性の高い教科指導と児童理解を通して～	4～6	市教委	豊川	国府小学校
6.10.24 (木)	教科指導	わたしが好き！なかまが好き！金屋小が大好き♡ ～ねばり強く取り組み、ともに学ぶ喜びを味わう子をめざして～	4～6	市教委	豊川	金屋小学校
6.10.28 (月)	全教科	学びのエネルギーをもとに、仲間と共に考え続ける子の育成 ～多様な考えをいかす授業づくりを通して～	5～6	市教委	安城	錦町小学校
6.10.30 (水)	教科指導	自他を敬愛し、互いに支え合おうとする子供の育成 ～共生を取り入れた学習指導を通して～	4～6	市教委	岡崎	根石小学校
6.10.30 (水)	社会・理科 生活科・図画工作 生活単元	「自ら学び、学びを生かそうとする子の育成」 ～単元を貫く目的意識から生まれる課題解決の実践を通して～	5～6	市教委	刈谷	小垣江小学校
6.10.31 (木)	全教科	学びをつなげる かさねる 広げる 桜井っ子 ～桜井のひとものごとを生かした横断的な学習を通して～	5～6	市教委	安城	桜井小学校
6.11.1 (金)	生活科 総合的な学習の 時間	ふるさと津具で学び、たくましく生きる子どもの育成 ～生活科、総合的な学習の時間で育む～	5～7	東三河事務協 県へき研	北設楽	津具小学校
6.11.6 (水)	学習指導 STEAM教育	学びと学びをつなぎ、学びと生活をつなぐ ～STEAM教育の実践を通して～	4～6	市教委	岡崎	美合小学校
6.11.6 (水)	学習指導	相手の想いに寄り添い、よりよい社会を創り上げていく子どもの育成 ～地域と連携した問題解決学習の実践を通して～	4～6	市教委	豊橋	新川小学校

デジタル採点支援システム

文振版

リアテンドント

文化振興会の「学習類」・「演習類」をご購入していただいている学校に
無償で提供しています。

いよいよ 運用開始
是非使ってください!
愛知教育文化振興会HPに
説明映像及び関係資料
を載せています。

採点時間の削減
だけでなく、
データ活用の面
でも有効です。

- 正答率の低い問題に着目し、模範解答を児童生徒に示すことができた。
- 詳細なテスト結果データから児童生徒の苦手範囲を把握し、早期に個別の指導ができた。
- 教員間で、なぜこの問題の正答率が低いのか児童生徒のつまづきポイントを分析できた。
- 若手の教員の指導力向上に、分析システムが役立っている。



令和6年度 業務組織

※()内は担当地区

顧問	岩月 慎自
理事長	彦坂登一郎
副理事長	柴田 昌一
常務理事	稲垣 良治 (西尾) 山本 満夫 (岡崎)
事務長 (兼 総務部長)	天野 明典 (豊田・附属)
事務次長 (兼 業務部長)	浅井 英雄 (豊橋)
総務部	近藤 文彦 (豊川)
編集部	柵木 智幸 (安城) 保科 克之 (知立・みよし)
ICT部	水鳥 勝久 (刈谷) 名倉 嘉章 (碧南・高浜)
業務部	平井 敦 (幸田・蒲郡) 本多麻紀子 深津 理絵
経理部	谷中 智典 (北設楽・田原) 松平 貴圭 (新城) 牧 富代
事務補佐	鳥居 直美

令和6年度
みかわ
さい
彩 発見

絵画コンクール

春・夏の部
最優秀作品

秋・冬の部
最優秀作品

あなたの
くらし・まつり・
ふるさを
描いてみませんか?

応募期間

令和6年
春・夏の部 **8月22日(木) ▶ 9月5日(木)**

令和6年
秋・冬の部 **12月16日(月) ▶ 1月14日(火)**

令和7年

※土・日・祝日を除く

詳しくは
こちらから

**刊行物
使用報告・注文締切**

◇使用報告/夏休み日誌
7月4日(木)～8日(月)
算数の友(下)
9月3日(火)～5日(木)

□注文締切/冬休み日誌・かきぞめ手本
9月10日(火)～12日(木)

**令和6年度
団体研究助成**

6月17日(月)に審査委員会を開催し、次の5団体に交付が決定しました。

- ・三河小中学校長会
- ・三河教育研究会
- ・三河教頭会
- ・愛知県へき地教育研究協議会
- ・生活・特別支援教育研究協議会

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

